

平成25年度

教科・科目名 科学年コース	世界史A 普通科 3年 文系	授業時間数/週	4時間
授業の目標	古代においてはオリент世界・ギリシア世界・ローマ世界を中心に文明の発展、都市国家の形成、宗教思想の誕生について理解させる。中世～近代はヨーロッパを中心にルネサンス・宗教改革・各革命などを説明し一体化する世界の情勢を理解させる。現代は中世・近代の流れをふまえ、産業の発展・帝国主義の誕生・世界大戦の影響等を学習させ、歴史の重要性を理解させる。		
授業内容の方法	古代は資料集・地図を使用しイメージを持たせながら進めて行き、中世～近代では板書にて時代の流れを意識させながら、歴史の繋がりを理解させる。		
評価方法について	試験 80点 評点 20点		
使用テキスト 教科書 副教材	教科書 山川出版社「高校世界史」 副教材 第一学習者「ダイアログ世界史図表」		
年間授業計画	前期 4月 古代オリент世界 5月 ギリシア世界、ローマ世界 6月 ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス、宗教改革 主権国家体制の形成 7月 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 9月 産業革命	後期 9月 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン 10月 ウィーン体制 11月 ラテンアメリカ諸国の独立 帝国主義の成立と列強の情勢 12月 第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 1月 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦	

平成25年度 社会科 世界史A 3年 年間学習計画

学期 月 配当時間	単元 項目 学習内容	学習のねらい ポイント	学習活動 (評価方法)
前期 4月 配当時間 15時間	古代オリエント世界	歴史地図を活用し、メソポタミアの地形や風土の特色を理解させるとともに、灌漑農業の発達がおリエント社会の形成の基盤となったことを理解させる。 メソポタミアとエジプトを対比させ、風土と歴史の特質を把握させる。 ユダヤ教の成立とその特色を明らかにし、後のキリスト教の成立に影響を及ぼしたことを指摘する。 アッシリアとアケメネス朝の被支配民族に対する支配の違いを理解させる。	春期休暇中課題「新聞・インターネット記事レポート」 授業態度 ノート提出
5月 配当時間 15時間	ギリシア世界 ローマ世界	地中海世界の自然環境から、地中海世界が外界との交易を必要としていたことを理解させる。 ポリスの規模・構造などを紹介し、ポリスでの人々の生活を考察させる。また、ポリスのもつ民主主義的性格にも触れる。 平民の地位向上には経済的・軍事的背景があり、国防の任にあたるものが政治的発言権をもったことに留意させる。 アレクサンドロス大王の人物像に触れながら、東西世界の融合をめざした彼の理想を理解させる。ローマでは元老院が指導権を保持し続けた点が、徹底した民主政を行ったギリシアとは違う点を確認する。 広大な領域支配やローマ市民権の拡大を通して、ローマが「世界帝国」としての性格を帯びていったことを明らかにする。 キリスト教について、「現代社会」や「倫理」との関連をはかり、成立の事情、迫害の理由、公認・国教化の社会的背景について取り扱うようにする。	GW休暇中課題 授業態度 ノート提出
6月 配当時間 20時間	ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス 宗教改革 1主権国家体制の形成	大航海時代の背景や新航路発見の動機について、政治・経済・宗教・文化を含めた広い視野から考察させる。 ルネサンスが、イタリアを中心にヨーロッパ各地で始まった社会的・経済的背景を理解させる。 宗教改革はカトリック教会組織を否定し、聖書と信仰を重んじる新教を成立させたことを理解させ、これがその後の政治・経済にも大きな影響を及ぼしたことを確認させる。 16世紀以降、ヨーロッパ諸国が領土・宗教・海外進出をめぐる激しく争う緊張状態に入り、戦争の長期化・大規模化とともに莫大な軍事費が必要になり、国内を強力でまとめる1人の君主を頂点とする中央集権的国家体制が生まれた経過を理解させる。	授業態度 ノート提出
7月 配当時間 20時間	重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出	オランダの独立の原因と経過を理解させる。また、これがスペインの衰退につながったことを思い出させる。 エリザベス1世時代、イギリスが大きく地位を向上させた背景を理解させる。 ピューリタン革命に至る経過とその結果について、基本的事項を中心に理解させ、革命の性格と意義を考察させる。 王政復古後の王と議会の関係をとらえさせ、名誉革命がおこった理由を理解させる。 プロイセンとオーストリアの抗争の経過、その結果、プロイセンがますます強国化していった経過を理解させる。 ピョートル1世とエカチェリーナ2世、それぞれの内政・外征を整理してとらえさせ、西ヨーロッパとは大きく異なるロシア社会の特質について理解させる。	定期試験 授業態度 ノート提出
9月 配当時間 15時間	産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン	イギリスで産業革命がおこった原因について、多角的に考察させる。 綿工業における技術革新が、動力部門など他の工業部門の発展を促していったことと、こうした工場部門の発達が交通機関の発達を要請したことを理解させる。 北アメリカ植民地の南北の産業の違いと、各種民地で自治の発達がみられたことに留意させる。 独立戦争を、当時のヨーロッパの国際関係との関連から考察させる。 旧制度下のフランス社会の状況を考察させ、何が社会矛盾になっていたかを理解させる。 フランス革命とアメリカ独立革命との関係を、思想面と経済面から把握させる。 ナポレオンのエジプト遠征の目的を考察させ、当時のヨーロッパ全般の状況を理解させる。 ナポレオンの支配がかえって諸国民の国民意識を目覚めさせることになった点を理解させる。	夏期休暇中課題「新聞・インターネット記事レポート」 授業態度 ノート提出

後期 10月 配当時間 16時間	ウィーン体制	ウィーン体制の反動的な性格と各地での自由主義運動の展開について理解させる。 イギリスにおける自由主義的改革は議会を中心に進められたこと、とくに第1回選挙法改正で議会に進出した産業資本家の政治的発言権が強まったことを理解させる。 二月革命の諸国への波及でウィーン体制が最終的に崩壊したことを指摘する。	授業態度 ノート提出
11月 配当時間 18時間	ラテンアメリカ諸国の独立 帝国主義の成立と列強の情勢	ラテンアメリカ諸国の独立をめぐる国際情勢を把握させ、それがウィーン体制の動揺につながったことを理解させる。 南北戦争の直接的原因は奴隷問題そのものではなく、奴隷問題がもとで合衆国が分裂するのを防ぐことであった点を確認させる。 イギリスとフランスの国内事情について理解させる。 ドイツではビスマルクの政治からヴェルヘルム2世の親政に代わったことを機に、積極的な帝国主義政策がとられるようになったことを注目させる。	定期試験 授業態度 ノート提出
12月 配当時間 13時間	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	開戦から休戦にいたる戦争の経過を大づかみさせ、そのなかで1917年のアメリカ参戦・ロシア革命が戦局を転換させたことを理解させる。 戦争のもたらす惨禍にめを向けさせ、平和を希求することの大切さを考えさせる。 ヴェルサイユ体制の成立経過とその問題点について具体的に把握させる。 とくにそれがドイツなどの敗戦国およびロシアの犠牲のうえになりたっていたことを理解させる。	授業態度 ノート提出
1月 配当時間 8時間	世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦	世界経済恐慌がアメリカに発生した原因、恐慌の実体、世界への波及について、基本的事項を把握させる。 イギリスの恐慌対策として、ブロック経済を中心に理解させる。 ナチスがなぜ政権を握ることができたのか、支持層などを含めその背景を考えさせる。 スターリンの独裁政権の内外面にわたる実体に関して、基本的には理解を促す。 ムソッリーニ政権がエチオピア支配に向かっていく背景と、これに対する国際連盟の無力が露呈され、威信低下につながる課程を理解させる。 第二次世界大戦が勃発し、拡大していく経過を大きくとれさせる。	冬期休暇中課題「新聞・インターネット記事レポート」 授業態度 ノート提出
2月 配当時間 時間			定期試験
3月 配当時間 時間			